

周作クラブ会報

(第50号)
2013年2月26日発行

周作クラブ

◆主な記事◆

| | |
|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 遠藤周作・生誕90年 報告「新年会」 特別寄稿・ 「遠藤先生の思い出」 「原稿発掘」 レポート 「遠藤記念サンプリ」 | 1面 2面 3面 4面 6面 |
|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|

遠藤周作・生誕90年

記念ミサと講演&音楽

2013年3月23日(土)

平成25(2013)年は遠藤周作生誕90年にあたり、周作クラブ主催(一部は長崎市遠藤周作文学館と共催)のいくつかの行事が予定されていますが、その最初のイベントが、東京・四谷の聖イグナチオ教会で行なわれる記念ミサと講演会です。

チオ教会では、1996年、参列者が4000人を超えた遠藤周作の葬儀が行なわれました。今回の記念行事の進行は左記のとおりです。

■3月23日(土) 13時30分

記念ミサと講演・音楽・懇親会

東京・四谷 聖イグナチオ教会
東京都千代田区麹町6の5の1
JR・地下鉄「四ツ谷」下車すぐ
電話 03・3263・4584
参加費・無料
主催/周作クラブ・
長崎市遠藤周作文学館

遠藤周作の誕生日は3月27日ですが、この日にもっとも近い土曜日として23日が選ばれました。この聖イグナ

2013年のその他の予定行事

■5月18日(土) 16時30分

記念対談

加賀乙彦氏 vs きたやまおさむ氏

町田市民フォーラム

周作クラブ会長・加賀氏の対談相手としてお迎えするのは、同じ精神科医のきたやま・おさむ氏。かつてザ・フォーク・クルセダースのメンバーとして、「戦争を知らない子供たち」「あの素晴らしい愛をもう一度」などの大ヒット曲を送り出したミュージシャン、作詞家でもあります。そのお二人に遠藤文学にも描かれる日本人の二面性などについて話していただきます。参加希望者は左記のファックスへお申込みください。
(03・3421・1521)

追って御連絡をさしあげます。

■7月20日(土) ~ 10月27日(日)

軽井沢高原文庫・夏季特別展

「生誕90年 遠藤周作展」(仮称)

遠藤周作の文学と人生を紹介する展示ですが、今回の特色は、「周作クラブ」誕生など、没後に見られた遠藤文学の広がりテーマとされるところです。

■9月21日(土) 14時

第8回遠藤周作学会

慶應義塾大学(三田)

北館3階 大会議室

懇親会 17時30分(北館1階)

詳しくは事前の会報等であらためて御案内いたします。

(記/総務担当幹事 加藤宗哉)

馬齢を重ねて古稀となり……

会報担当幹事 高橋千劔破

今年で遠藤先生が没して17年、周作クラブが発足して13年、会報は50号を数えます。まさに光陰矢の如しで、あっという間の17年間であり、13年であったように思います。しかし、確実に年を取ったのも事実です。遠藤先生が亡くなられたとき53歳だった僕は、今年の1月で古稀を迎えました。先生の享年まであと3年、などと思ったりします。生きるという言葉は、死に向かつて一歩ずつ近づいて行くことに他なりません。生と死の意味を問うことは、文学の永遠のテーマです。遠藤先生は多くの作品を残しましたが、僕はといえざらに馬齢を重ねております。ともあれ、周作クラブのためにもう少し頑張りたいと思います。

新旧会員とともに

会計・会員担当幹事 宮辺 尚

新年早々、東京にはめずらしい大雪が降りました。解けずに凍った道で転倒、何と腕を骨折してしまい、周作クラブの新年会で皆さまにお目にかかれなくなり残念でした。手術を終えて一月中に退院しましたので、次のイベントではまたお会いできるでしょう。

会計・会員管理の立場からは、少しづつ退会者があることは仕方ないことだとは思いますが、その一方で毎年たくさん新しい方が、それも二十代、三十代の方までもが入会されてくることを非常に心強く感じます。昔からの会員の方々のご希望にも、新しく入ってこられる方々のご希望にもこたえられる活動をしていく会にしていきたいと思えます。